

# 全日本中学校長会会長賞（優秀賞）

「輝け 日本の天然水」

宮崎県

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校

三年

崎田

莉央

私は今年、目の手術をします。小さい頃から目が悪かったので、毎年、目の神様のいる神社のお祭りに行っています。そこでは、神社の山の湧き水である御神水が販売されており、目を洗うと眼病が治ると言われています。この湧き水は、誰でも自由に汲むことができるので、行ってみることにしました。

実際に見てみると、本当に純粹な天然水で、心が洗われていくような心地良さを感じました。手に湧き水を溜め、「目が良くなりますように」と願いをこめて目を洗いました。

並んでいる人の中には、湧き水を飲んでいる人もいました。普段水道水を使用して生活している私は、何も殺菌せずに飲める湧き水があることを知ってとても驚きました。

そこで私は、災害などで水道水が使えなくなった際に、天然の湧き水や井戸水、川の水を生活用水として活用できるのではないかと思いました。被災した際に必要な三日分の水を確保できなかったときに、地域の天然水が活用できることを知っていたら心強いと思います。そして、その天然水をきれいに保つことが、災害時の安定した生活につながります。

今から十九年前の九月に台風十四号が宮崎県を襲い、記録的な豪雨をもたらしました。多くの河川が氾濫し、一級河川、大淀川の下流域である宮崎市は、大きな被害をうけました。宮崎市の多くの地域で長い間断水になり、祖母の家でも水が出なくなりました。しかし、祖母の家には、キッチンや手洗い場、お風呂場に井戸水が通っているため、不自由なく暮らすことができたそうです。お風呂にも毎日入ることができ、洗濯もできたのは井戸水のおかげだと話してくれました。

私は祖母の話聞いて、大淀川について調べてみようと思い、「大淀川学習館」という施設に行きました。その施設には、古くて大きい「揚水ポンプ」が展示されています。揚水ポンプは、大淀川を直接汲み上げる

もので、昔から発生していた大きな干ばつから救うために昭和二年に購入されたものでした。当時、水騒動まで発生した干ばつでしたが、この揚水ポンプを設置してからは、田畑が潤い、平和な生活を取り戻せたそうです。

今も昔も、井戸や揚水ポンプなどの技術と天然水に助けられていることが分かりました。今は水道水があるため不自由なく暮らせていますが、いつ災害がおきて、日常生活が著しく制限されるかは分かりません。備蓄水の一つの選択肢として、地域の天然水を活用するために、必要なことを考えました。それは、身近にある井戸水や湧き水、川のを把握することです。さらに、きれいな天然水を私達が後世に残すことも忘れてはいけません。

そこで私は、宮崎市にある湧き水をインターネットで調べました。県内には百ほどあるようですが、宮崎市には見つかりませんでした。しかし、私は実際に天然の湧き水を見ています。もしかすると、湧き出ている量が少ないなどの理由で、湧き水として認められていないのかもしれないと思いました。

インターネットにはのっていないなくても、確かに存在する湧き水があります。それを知るのには、地域に長く住む方々です。話を聞いてみると、意外な場所に湧き水を発見することができるはずですよ。

日本は天然水に恵まれている豊かな国です。きれいな水を守り、輝かせて未来へ繋いでいく。これが日本に住む私達の使命だと思います。水がきれいだからこそ、困ったときに活用することができるのです。私個人でできることは小さなことかもしれませんが、それが積み重なれば、水資源を守ることにつながります。「これが日本の天然水だよ」と後世で胸をはれるようになりたい。湧き水と井戸水に触れて多くのことを学んだ私は、強くそう思いました。